



## 2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年10月26日

上場会社名 日本車輛製造株式会社 上場取引所 東名  
 コード番号 7102 URL <https://www.n-sharyo.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 五十嵐 一弘  
 問合せ先責任者 (役職名) 総務部長 (氏名) 永田 健一 TEL 052-882-3316  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月4日 配当支払開始予定日 2021年12月1日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	42,512	△6.1	2,826	△11.2	2,868	△15.1	2,445	△2.9
2021年3月期第2四半期	45,259	△1.7	3,183	△9.3	3,377	△6.4	2,519	△21.0

(注)包括利益 2022年3月期第2四半期 1,564百万円 (△38.4%) 2021年3月期第2四半期 2,537百万円 (△11.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	169.46	—
2021年3月期第2四半期	174.58	—

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	133,670	46,752	34.9
2021年3月期	136,595	45,288	33.1

(参考)自己資本 2022年3月期第2四半期 46,606百万円 2021年3月期 45,149百万円

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2022年3月期	—	10.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	93,000	△6.5	6,100	△32.6	6,100	△34.4	5,300	△33.2
								367.22

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期2Q	14,675,012 株	2021年3月期	14,675,012 株
------------	--------------	----------	--------------

② 期末自己株式数

2022年3月期2Q	242,425 株	2021年3月期	242,109 株
------------	-----------	----------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2022年3月期2Q	14,432,789 株	2021年3月期2Q	14,433,285 株
------------	--------------	------------	--------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2022年3月期の個別業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	92,000	△6.1	5,900	△34.5	5,200	△37.9	360.27

（注）直前に公表されている業績予想からの修正の有無：有

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9
(収益認識関係)	10
(重要な後発事象)	10
3. 補足情報	11
(1) 生産、受注及び販売の状況	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、景気は緩やかな持ち直しの動きが見られるものの、新型コロナウイルス感染症の再拡大による4回目の緊急事態宣言の発出や、世界的な資源高、半導体の供給不足の懸念が浮上するなど、先行きが不透明な状況が続いております。

このような経営環境のもと、当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、エンジニアリング事業の売上が増加した一方、鉄道車両事業、輸送用機器・鉄構事業、建設機械事業の売上が減少したことなどにより、売上高は前年同四半期比6.1%減少の42,512百万円となりました。利益面につきましては、鉄道車両事業、エンジニアリング事業の利益が増加した一方、輸送用機器・鉄構事業、建設機械事業の利益が減少したことなどにより、営業利益は前年同四半期比11.2%減少の2,826百万円、経常利益は前年同四半期比15.1%減少の2,868百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期比2.9%減少の2,445百万円となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間の売上高は203百万円増加し、売上原価は109百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ93百万円増加しております。詳細については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

セグメント別状況は以下のとおりであります。

#### ①鉄道車両事業

JR東海向けN700S新幹線電車のほか、JR東日本向けレール輸送車、小田急電鉄向け電車、名古屋市交通局向け電車などの売上がありましたが、JR東日本向けレール輸送車が前年同四半期に比して減少したことなどにより、鉄道車両事業の売上高は21,076百万円と前年同四半期比5.5%減少となりました。

#### ②輸送用機器・鉄構事業

輸送用機器におきましては、貨車の売上が前年同四半期より増加しましたが、大型陸上車両、無人搬送装置などの売上が減少しました。

鉄構におきましては、大野油坂道路中津川高架橋鋼上部工事、圏央道島名第一橋、東海道新幹線大規模改修工事などの売上がありましたが、官公庁向けの道路橋などが前年同四半期に比して減少しました。

以上の結果、輸送用機器・鉄構事業の売上高は6,458百万円と前年同四半期比33.3%減少となりました。

#### ③建設機械事業

国内向けの都市再開発工事の需要などにより大型杭打機の売上が引き続き高い水準となりましたが、全回転チュービング装置が前年同四半期に比して減少したことなどにより、建設機械事業の売上高は9,804百万円と前年同四半期比8.4%減少となりました。

#### ④エンジニアリング事業

鉄道事業者向け機械設備のほか、家庭紙メーカー向け製造設備、各地のJA向け営農プラントなどの売上があり、鉄道事業者向け機械設備や家庭紙メーカー向け製造設備が前年同四半期に比して増加したことなどにより、エンジニアリング事業の売上高は5,136百万円と前年同四半期比102.2%増加となりました。

### （2）財政状態に関する説明

#### ①資産

前連結会計年度末に比べ2.1%減少し133,670百万円となりました。これは、短期貸付金が増加した一方で、全事業で回収が進捗したため受取手形及び売掛金が減少したことなどによるものであります。

#### ②負債

前連結会計年度末に比べ4.8%減少し86,917百万円となりました。これは、主に未払法人税等の支払によるものであります。

#### ③純資産

前連結会計年度末に比べ3.2%増加し46,752百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が減少した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したため利益剰余金が増加したことなどによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期（2021年4月1日～2022年3月31日）の連結・個別業績予想につきましては、前回発表（2021年7月29日付け）の通期の予想値を以下のとおり修正することといたしました。

売上高は、連結・個別ともに鉄道車両事業、建設機械事業、エンジニアリング事業が堅調に推移していることから、増加する見通しです。連結・個別の営業利益および経常利益は、売上高が増加することや製品構成の変化などにより全体の利益率が向上することから、増加する見通しです。

連結の親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益が増加することから、増加する見通しです。

個別の当期純利益は、経常利益が増加することから、増加する見通しです。

[2022年3月期 通期（2021年4月1日～2022年3月31日）連結業績予想]

（単位：百万円 %）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
前回発表予想	92,000	5,400	5,400	4,800
今回発表予想	93,000	6,100	6,100	5,300
増減額	1,000	700	700	500
増減率（%）	1.1	13.0	13.0	10.4
ご参考 前期実績（2021年3月期）	99,448	9,047	9,301	7,928

[2022年3月期 通期（2021年4月1日～2022年3月31日）個別業績予想]

（単位：百万円 %）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想	91,000	5,300	4,800
今回発表予想	92,000	5,900	5,200
増減額	1,000	600	400
増減率（%）	1.1	11.3	8.3
ご参考 前期実績（2021年3月期）	97,934	9,009	8,377

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,888	3,851
受取手形及び売掛金	25,754	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	18,899
電子記録債権	1,671	1,094
商品及び製品	1,270	1,125
半製品	1,228	1,160
仕掛品	28,132	29,469
原材料及び貯蔵品	1,480	1,503
短期貸付金	16,079	22,387
その他	1,272	1,069
貸倒引当金	△16	△10
流動資産合計	81,761	80,551
固定資産		
有形固定資産		
土地	14,379	14,378
その他（純額）	14,222	13,756
有形固定資産合計	28,601	28,134
無形固定資産		
	681	591
投資その他の資産		
投資有価証券	19,957	18,724
退職給付に係る資産	4,916	4,878
その他	691	804
貸倒引当金	△13	△15
投資その他の資産合計	25,551	24,392
固定資産合計	54,834	53,118
資産合計	136,595	133,670
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,656	7,619
電子記録債務	10,120	10,226
1年内返済予定の長期借入金	3,360	3,364
未払法人税等	1,346	413
前受金	1,108	1,274
賞与引当金	1,974	1,919
工事損失引当金	31	61
その他	7,690	4,616
流動負債合計	33,288	29,495
固定負債		
長期借入金	51,945	51,771
引当金	198	154
退職給付に係る負債	259	270
その他	5,615	5,226
固定負債合計	58,018	57,421
負債合計	91,307	86,917

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,810	11,810
利益剰余金	25,409	27,759
自己株式	△519	△520
株主資本合計	36,699	39,049
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,646	7,765
為替換算調整勘定	△2,228	△2,245
退職給付に係る調整累計額	2,031	2,037
その他の包括利益累計額合計	8,449	7,557
非支配株主持分	138	145
純資産合計	45,288	46,752
負債純資産合計	136,595	133,670



（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
（四半期連結損益計算書）  
（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）
売上高	45,259	42,512
売上原価	38,645	36,241
売上総利益	6,613	6,270
販売費及び一般管理費	3,430	3,443
営業利益	3,183	2,826
営業外収益		
受取利息	15	16
受取配当金	151	123
持分法による投資利益	82	46
受取保険金	123	6
その他	105	57
営業外収益合計	478	250
営業外費用		
支払利息	178	173
為替差損	87	—
その他	19	35
営業外費用合計	284	208
経常利益	3,377	2,868
特別利益		
固定資産売却益	2	4
投資有価証券売却益	93	37
ゴルフ会員権売却益	—	18
特別利益合計	96	60
特別損失		
固定資産除売却損	36	85
減損損失	3	1
投資有価証券売却損	33	—
投資有価証券評価損	—	5
特別損失合計	72	92
税金等調整前四半期純利益	3,401	2,835
法人税等	874	379
四半期純利益	2,526	2,456
非支配株主に帰属する四半期純利益	6	11
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,519	2,445

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	2,526	2,456
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	84	△884
繰延ヘッジ損益	△0	—
為替換算調整勘定	3	△16
退職給付に係る調整額	△65	5
持分法適用会社に対する持分相当額	△11	3
その他の包括利益合計	11	△892
四半期包括利益	2,537	1,564
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,531	1,553
非支配株主に係る四半期包括利益	6	11

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首より適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に及ぼす影響はありません。

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

これにより、工事請負契約等において、一定期間にわたり履行義務が充足される契約として収益を認識しております。なお、当社は総見積原価の妥当な積算を行うこと及びこれらの契約に係る進捗度を合理的に見積もることが可能な場合、進捗度の測定についてはインプット法の使用が適切であると考えており、契約ごとの見積総原価に対する発生原価の割合を用いております。なお、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生する費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準にて収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。また、収益認識会計基準第86項また書き（1）に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は203百万円増加し、売上原価は109百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ93百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は49百万円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っていません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

（追加情報）

（親会社へ譲渡した固定資産）

当社は、2017年4月20日に豊川製作所、衣浦製作所、鳴海製作所の工場資産を当社の親会社（東海旅客鉄道株）へ譲渡しました。当該取引は、当社の親会社との取引であり、かつ、譲渡した工場資産は譲渡後も親会社との間で賃貸借契約を締結して当社が従前どおり工場として使用を継続しているため、これら工場資産の土地およびその他の有形固定資産については売買処理を行っておらず、有形固定資産に計上しております。なお、当該取引はファイナンス・リース取引には該当しないため、工場資産の譲渡価額は長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）に計上しております。また、譲渡した工場資産に係る設備投資についてもその他の有形固定資産に計上するとともに、設備投資額の一部を長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）に計上しております。

上記の結果、2021年9月末日における計上額は、土地11,975百万円、その他の有形固定資産5,763百万円（いずれも2021年9月末日の帳簿価額）であり、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）の残高は22,438百万円であります。

（セグメント情報）

I 前第2四半期連結累計期間（自2020年4月1日 至2020年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	鉄道車両 事業	輸送用機器 ・鉄構事業	建設機械 事業	エンジニアリ ング事業				
売上高								
外部顧客への売上高	22,307	9,678	10,700	2,540	31	45,259	—	45,259
セグメント間の内部売上高 又は振替高	34	—	108	—	114	257	△257	—
計	22,342	9,678	10,809	2,540	145	45,516	△257	45,259
セグメント利益	1,233	218	2,255	8	49	3,763	△580	3,183

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であります。

2. セグメント利益の調整額には、全社費用△557百万円、棚卸資産の調整額△29百万円およびセグメント間取引消去7百万円などが含まれております。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自2021年4月1日 至2021年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	鉄道車両 事業	輸送用機器 ・鉄構事業	建設機械 事業	エンジニアリ ング事業				
売上高								
外部顧客への売上高	21,076	6,458	9,804	5,136	35	42,512	—	42,512
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8	48	52	—	134	244	△244	—
計	21,085	6,506	9,857	5,136	170	42,757	△244	42,512
セグメント利益又は損失(△)	1,978	△486	1,667	310	△185	3,284	△457	2,826

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額には、全社費用△479百万円、棚卸資産の調整額13百万円およびセグメント間取引消去7百万円などが含まれております。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

（会計方針の変更）に記載のとおり、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の鉄道車両事業の売上高は78百万円減少、セグメント利益は123百万円増加し、輸送用機器・鉄構事業の売上高は281百万円増加、セグメント利益は30百万円減少しております。

（収益認識関係）

（顧客との契約から生じる収益を分解した情報）

当社グループの事業は、鉄道車両事業、輸送用機器・鉄構事業、建設機械事業、エンジニアリング事業及びその他の事業により構成されております。当社グループでは、これらの事業を通じて得られる収益を売上高として表示しています。なお、当社グループの代理人としての履行義務はありません。

報告セグメント別に分解した顧客との契約から認識した売上高は次の通りです。

（単位：百万円）

			当第2四半期 連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
報告セグメント	鉄道 車両 事業	J R	16,282
		公民営	4,793
		小計	21,076
	輸送用機器 ・ 鉄構事業	輸送用機器	3,608
		鉄構	2,850
		小計	6,458
	建設機械事業		9,377
	エンジニアリング事業		5,136
	その他 (注) 1		35
	合計		42,085
顧客との契約から認識した収益	一時点で移転される財	38,426	
	一定の期間にわたり 移転される財	3,659	
	合計	42,085	
その他の源泉から認識した収益 (注) 2		426	
外部顧客への売上高		42,512	

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であります。

2. 「その他の源泉から認識した収益」には、収益認識会計基準等の適用外の取引として、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」が定めるリース取引等が含まれております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

### 3. 補足情報

#### (1) 生産、受注及び販売の状況

##### ①生産実績

事業区分	前第2四半期連結累計期間 (2020.4.1~2020.9.30)		当第2四半期連結累計期間 (2021.4.1~2021.9.30)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
鉄道車両	23,722	51.0	23,641	53.0
輸送用機器・鉄構	9,182	19.7	6,633	14.9
建設機械	9,999	21.5	8,174	18.3
エンジニアリング	3,638	7.8	6,176	13.8
その他	5	0.0	4	0.0
合計	46,548	100.0	44,630	100.0

##### ②受注状況

事業区分	前第2四半期連結累計期間 (2020.4.1~2020.9.30)		当第2四半期連結累計期間 (2021.4.1~2021.9.30)		
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	
受注高	鉄道車両	10,095	33.0	22,801	52.0
	輸送用機器・鉄構	6,563	21.4	5,121	11.7
	建設機械	10,206	33.3	11,187	25.5
	エンジニアリング	3,727	12.2	4,663	10.7
	その他	36	0.1	39	0.1
	合計	30,629	100.0	43,814	100.0
受注残高	鉄道車両	89,666	79.5	112,586	78.3
	輸送用機器・鉄構	16,617	14.7	15,321	10.6
	建設機械	3,275	2.9	12,806	8.9
	エンジニアリング	3,288	2.9	3,164	2.2
	その他	7	0.0	3	0.0
	合計	112,855	100.0	143,883	100.0

##### ③販売状況

事業区分	前第2四半期連結累計期間 (2020.4.1~2020.9.30)		当第2四半期連結累計期間 (2021.4.1~2021.9.30)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
鉄道車両	22,307	49.3	21,076	49.6
輸送用機器・鉄構	9,678	21.4	6,458	15.2
建設機械	10,700	23.6	9,804	23.0
エンジニアリング	2,540	5.6	5,136	12.1
その他	31	0.1	35	0.1
合計	45,259	100.0	42,512	100.0